



TITLE:

來年(二六〇三年)二月五日の日蝕皆  
既に就いて

AUTHOR(S):

田中, 朝夫

---

CITATION:

田中, 朝夫. 來年(二六〇三年)二月五日の日蝕皆既に就いて. 天界 1942,  
22(255): 289-290

ISSUE DATE:

1942-08-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168430>

RIGHT:

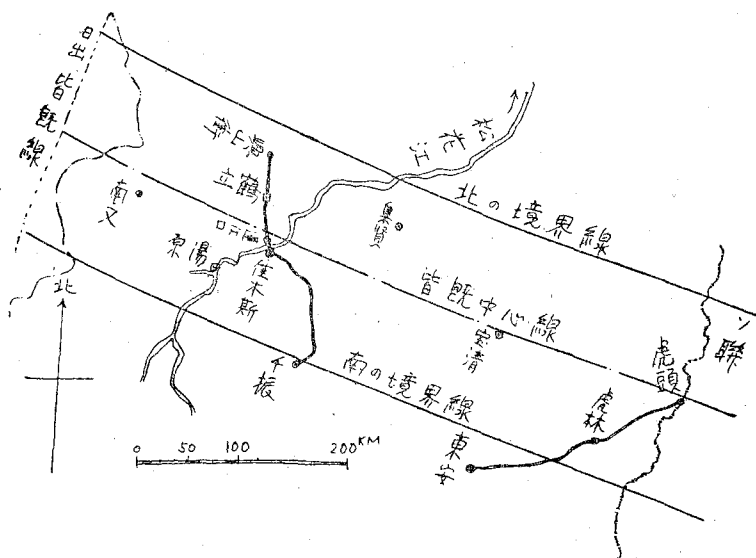
## 來年（二六〇三年）二月 五日の日蝕皆既に就いて

On the Solar Eclipse, Feb. 5, 1943.

田 中 朝 夫 Asao Tanaka.

明年二月五日早朝に起る日蝕皆既について私は其の日蝕皆既地帯が北海道で見えたと云ふことを知りつゝも私等の如く滿洲に住んでゐる者は、この皆既地帯が必ずや滿洲のいづれかにあるものと信じ、一日も早く皆既地帯を知りたく毎月々々御送附下さる天界を拜見いたして居りました所、幸に六月號に之が第一報を發表されましたので私は之を基準としまして滿洲國地圖に記入して皆既地帯の實地調査を行ひました所、下圖の如くでありました。六月號にもありました如くハルピンは皆既地帯をはなれて居ますが、もしハルピンが地帯内にあるとしても、冬期の煤烟のため觀測には不適當です。滿洲國で適當と思はれるのは三江省の佳木斯の附近から以東と思はれます。圖中、湯原より西方は山岳地帯で日出皆既の線に近く、とうてい皆既の觀測は不可能と思ひます。

調査の目標として、何様早朝です故、平原を選び、又、汽車の便の良き所、宿舍の有無等でした。先づ、西方から説明すると、三江省の南又は、汽車の便は良いですけど、山岳地帯で、觀測には適當せず、其上、日出皆既の線に近



いので、之は先づ不良とします。次に、三江省の湯原は、東南方面が可なり廣い平原であり、汽車の便利も良いので、先づ觀測出來得るものと思ひます。次に私等の居る三江省の興山街ですが、この地方は少し山岳が東南方面にあり、其山の頂上に行かなければならないが、途中は狼等のため危険があり、之も不適當と思ひます。次に三江省の鶴立、ここは東南方面に、すい分廣い平原で、汽車の便はよく、先づ、三江省では第一の適地と推察します。又、蓮江口、及び佳木斯は東南部に低き山岳あれども、極く低い山ですので、觀測は可能と思はれます。其他、同省の悅來、集賢等はあれども、鐵道の便なく、旅行に困難と思はれます。又、東安省の寶清は、中心線にありまして、觀測に好適地と思はれますが、鐵道の便なく、旅行に不便です。次に虎林及び虎頭は、ソ聯に近くなり、虎頭は國境であります故、兩地とも旅行許可證が入用で、これさへうまく許可さるれば、觀測の時刻や地形からも最適地と思はれます。

さて、早朝地平線に於て太陽の觀測は普通の土地に於ては雲のため甚だ困難なる作業ですが、此點に於て北滿で恵まれて居ますのは、冬期早朝、即ち日出は地平線にはつきりと太陽が出来ることです。只、こゝに注意を要することは冬期は暖房用の煙です。煙は相當に多く、むしろ早朝の雲害よりも多いのです。私がさきに『ハルビンがもし皆既地帯内にあつても觀測に不適當』と云つたのは此點です。新京、奉天、ハルビン等の都會は、この煙害は實に大で、内地では、大阪が煙が多いと云ふけれども、大阪に比べて優るとも劣らない煙です。故に相當太陽が高くならなければはつきり見へないのです。又、二月5日は滿支人の正月元旦に相當する故、宿舍は日系宿舍を求める必要があります、たしかなる日系宿舍のある家を探しあてゝおく必要がありますが、大抵の場所に日系旅館はあります。次に、氣温ですが、二月と云へば、まだ極寒で、零下三十幾度は覺悟して居なければならず、三寒四溫の三寒にあたれば、四十度近くなるやも知れませんが、是非とも毛皮の手袋と、防寒帽、防寒服は用意しなければなりません。毛皮のオーバーがあれば良いのですが、もしなき場合は、下着を十二分に澤山着て居れば良いと思ひます。とにかく極寒相手です故、決して素手で金物にさはらないことです。もし素手でさはれば、手は金物にくつついて離れず、ついに凍傷にかゝり、思はぬかたわになります故、注意しなければなりません。大體、之で各地の話をいたしました。私自身としましては、日蝕の最初からの觀測は出来ないが、北海道に行けぬ場合には、三江省の鶴立で觀測の豫定で居ます。この地は人家少なく、すぐ郊外に出られる便利があります。この日蝕に對し北滿の狀況は大體上記の通りです。

追つて、小生本年八月、北支山西省に勤務が變るやも知れませんが、明年の二月5日には、ぜひ北海道へ（又は三江省鶴立に）行く豫定です。（北滿〇〇にて記）